

「気象集誌」のJ-STAGE即時登載について

日本気象学会が発行する学術雑誌「気象集誌」(Journal of the Meteorological Society of Japan: JMSJ)は、近年の電子ジャーナル化に向けた時代の流れに従い、2001年以降の論文についてJ-STAGEで一般に無料公開されるようになりました。J-STAGEとはJapan Science and Technology Information Aggregator, Electronicの頭文字からとったもので、独立行政法人科学技術振興機構が運営し、学術雑誌を無料で一般公開する科学技術情報発信・流通総合システムのことです。J-STAGEのURLは<http://www.jstage.jst.go.jp/en/>ですが、学会ホームページからも迎れます。

ただし、完全無料化にすると、紙媒体で購読している会員の特典が曖昧になり、購読者が激減するのではないかと危惧されました。そこで、紙媒体の発行から3か月のタイムラグをおいてWeb上に登載するというところを行ってきました。しかし、その後の追跡調査によると、確かに購読者数は減少したものの激減には至っておらず、「天気」を含めた近年の会員総数の減少とほぼ比例する程度のものでした。また、J-STAGEに無料で学術雑誌を公開している他学会においても、購読者数が激減したという例はない、という情報を得ま

した。

そこで、気象集誌編集委員会で議論した結果、これまでの3か月のタイムラグを撤廃し、紙媒体の発行後、速やかにWeb上に掲載しても良いのではないかと、この結論に達しました。この提案は常任理事会でも承認され、第82巻(2004年)から実施されることになりましたので会員の皆様にお知らせいたします。

近年、気象学や大気科学関連の学術雑誌に掲載される論文数が急速に増大するなかで、サーキュレーションの良い雑誌のみが国際的評価の中で生き残れる時代に急変しつつあります。2005年からは、気象集誌とは別に電子レター誌「SOLA」の創刊も決まっております。気象集誌編集委員会では、今後集誌のインパクトファクターを上げるには、Web上で集誌を即時公開してサーキュレーションを上げることが望ましいと判断し、3か月のタイムラグ撤廃に踏み切りました。会員の皆様には、今回の気象集誌のJ-STAGEへの即時搭載に是非ともご理解を頂き、国際誌としての気象集誌の今後の運営と一層の発展にご協力下さるようお願いいたします。

気象集誌編集委員長
田中 博

==== 編集委員会だより ====

「気候情報（日本の大雨と台風のみとめ）」の掲載開始について

長らく気象関係者に愛読されてきた気象庁監修・日本気象協会発行の月刊誌「気象」が2002年3月号をもって廃刊となったのを受けて、「天気」編集委員会では「気象」に掲載されていた記事のうち、会員の皆様にとって有用なものを気象庁の関連部局にご相談しながら掲載するよう努力して参りました(天気49巻4号311ページ参照)。既に「日々の天気図」「日本の天候(毎月)」

は2002年5月号より連載しておりますが、この度気象庁予報課のご協力を得て、毎年の日本の大雨と台風のみとめも掲載できる運びとなりました。今後、毎年5月号に前年の日本の大雨と台風のみとめを掲載していく予定です。連載の開始にあたって本年は、2002・2003年分を掲載いたします。どうぞ本情報欄を有効にご利用下さい。